

林業安全コラム

みんなでつなぎ 高まる意識
達成しようゼロ災害

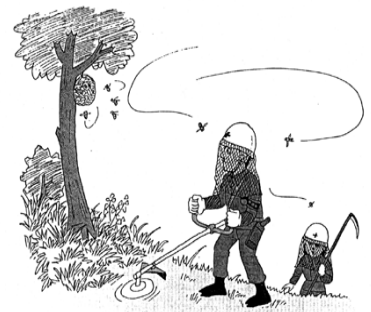
○ 蜂刺され災害防止対策の徹底を！

7月から10月にかけては蜂の巣の大きさも最大となり、働き蜂の巣を守る防衛行動も高まると言われています。

蜂による災害を無くすためには、先ず刺されないことが基本です。そのためには、

①巣に近寄らない、②巣に振動などの刺激を与えない、③巣の近くでは作業をしない、④黒い衣類は避ける、⑤防蜂網・防蜂手袋の着用、⑥蜂用の殺虫スプレーを携行するなどの注意や対応が必要です。

また、あらかじめ蜂アレルギーの検査または診察を受け、重篤なアレルギー反応を起こすおそれのある者に対しては、医師の処方によるアドレナリンの自己注射器（商品名：エピペン）を携行させるなどの対応が必要です。



○ 本年4件目の「林業死亡労働災害多発警報」発令！

林業・木材製造業労働災害防止協会は、北海道支部、兵庫県支部、宮崎県支部に続き、4件目の「林業死亡労働災害多発警報」を平成26年8月1日から3ヶ月間、高知県支部に対して発令しました。

死亡災害については平成26年に入っても増加傾向で推移し、**平成26年7月末現在、都道府県からの報告によると、林業における死亡災害は26人**となっており、極めて憂慮すべき事態です。警報が発令された支部では、関係行政機関等が連携して労働災害防止対策を推進していくこととしていますので、ご協力をお願いします。

<詳しくは、林材業労働災害防止協会のHPをご覧ください。>

http://www.rinsaibou.or.jp/cont04/04_frm.html

○ 林業労働災害の発生事例について（類似災害防止のために！）

【事例】

当日、被災者は同僚5名とスギの伐出作業（皆伐）に従事。（被災者は指導員と伐倒作業に従事。）

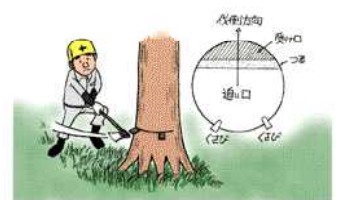
11:00頃、被災者が伐倒木（スギ60年生 L:20m D:35cm）を谷側に倒そうと作業していたところ、伐倒方向が狂い、跳ね上がった元口が待避が遅れた被災者の胸部に当たり受災。

<発生状況から推察>

被災者は谷側に受口を作り、山側から追口を入れていったところ、ツルの片側が切断され、伐倒木が回転しながら元口から垂直に落下するとともに、伐倒予定とは逆方向に倒れてしまった模様。倒れた方向にはグラップルとハーベスタがあり、被災者は機械にぶつかるのではないかといいことに気をとられ退避行動が遅れたものと推察。



くさびと伐倒



【経験の浅い者には確実な伐倒方法、待避の指導を！】